

Move Mountains

2月5日90号

○超えられた

先日の SOLAN 小学校研究会では、全国から多くの先生方に参観いただきました。国語の授業を見て、多くの方々から感想をいただきました。

とある市の教育委員会の方には、この形態の授業を市で真似したいと言っていたき、とある私立学校の方からも、学校として取り入れていきたいと言っていたき、

とある県の教育長（県の教育のトップ）からは、「5年生の話し合う姿、学級が本当に素晴らしい」と絶賛していただきました。

みなさんの学習に向かう姿勢、積み重ねてきたものが、見る人には伝わっていきます。



1/25の様子。参観者の方が多い中、すごい議論が起こり皆さんを驚かせました。

3Qにご覧いただいた「宮沢賢治プロジェクト」は9月から準備を始め、賢治の書いた文献11冊、賢治に関する論文16本、授業に関する書籍16冊、モチーフにした映画1

本を見ました。

岩手にも行きました。そう、賢治の故郷をたずね、同じ空気を吸って、作品の世界に浸るためです。

4Qに読んでいる「大造じいさんとガン」が教科書に掲載されたのは、何と昭和26年。小学生の時に読んだことを覚えている方も多いのではないのでしょうか。たくさんの教室で授業が繰り返されてきました。

論文45本を読み、椋鳩十の生まれ故郷である長野県にも行って事前に準備をしてきました。

個人としても相当に読み込んでいる自信があります。

国語の授業に関して、ここまでしています。

しかし、読みを**超えられた!**と思った瞬間がありました。基本的に、私は何も教えていません。子どもたちが読み進められるように場を作り、手順は示しますが、教えることはしません。

事実、先日の公開でも、多くの先生方から、保護者の方からも「自分たちで読み進めている」姿に関する感想を多くいただきました。

SOLAN小学校に来て、職員室の会話レベルが高くて居心地が良いです。各教科で、それぞれのプロフェッショナルがいます。授業に関して、見てもらいたいポイントのコメントをもらうことができます。

超えられた読みについて、詳述はしませんが、その子が大活躍して拍手喝采となりました。

授業をしているとこういう瞬間があります。ドラマが生まれます。

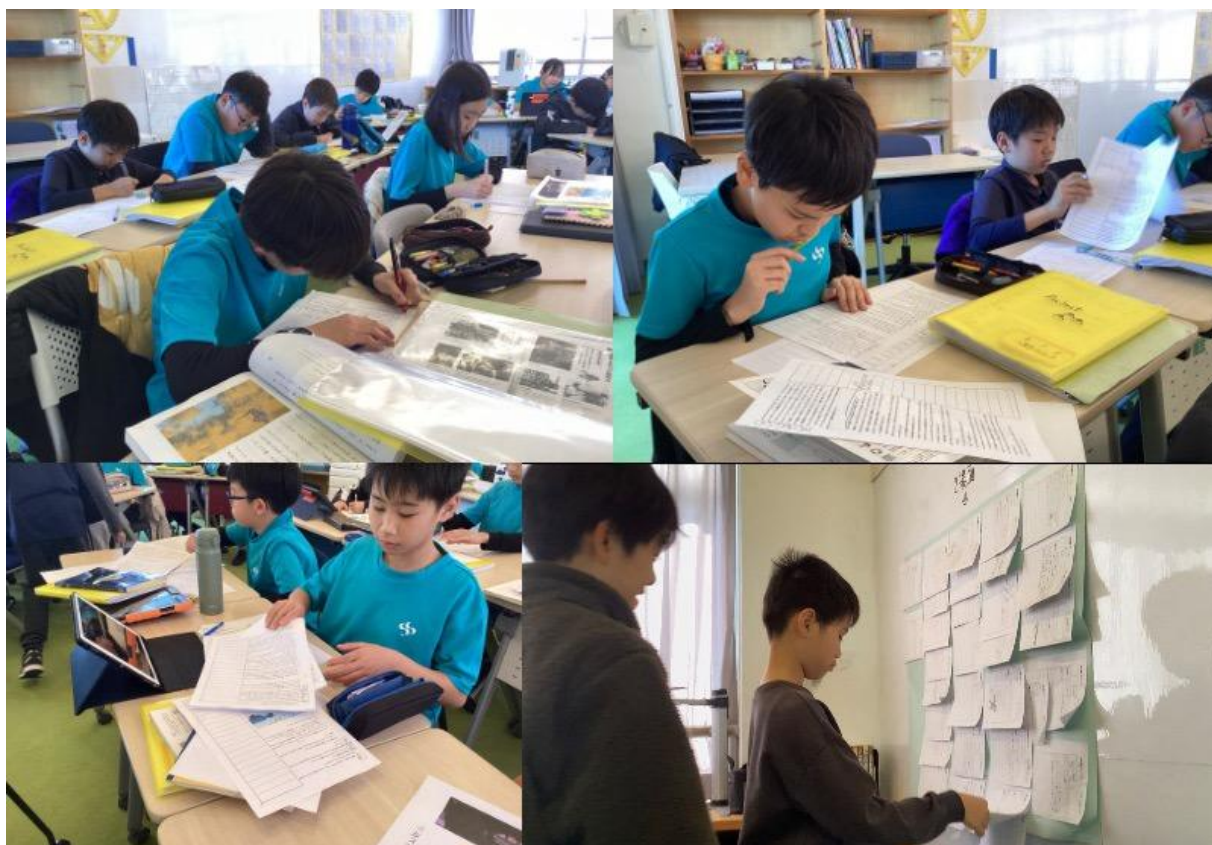
その子だけではありません。

次々と発言が続き、「お〜」「なるほど」「たしかに」「…それは違うかも」「気づかなかった」「すげえ」…こんな声があちらこちらから聞こえてきます。何度も拍手が起りました。

↓授業映像からの切り抜き。色々な子が次々と発言します。



ただ言い合っているだけではありません。国語の研究者に来ていただいて、参観してもらい、読みを深めていることを認めていただきました。



ある意味、私は授業の時間には何もしていません。

「どれにしようか」「音読しよう」「次何する?」「意見交流してみる?」「いい気づきだね」「この二文字に着目したのか!すごい!」「たくさん書いたね」「ここを深めてみよう」

のように声をかけますが、教えはしません。そして、「言いたい!」「聞いて!」と、言いたくて仕方ない子たちが発言を続けて、授業が進んでいきます。

学びのサイクルを回し、自分たちで気づき、深めていく。

そんな力を身につけてきているように思います。

先生が魅力的な情報を提示して、おもしろい話をして引き付けて、たくさん教えてくれた!という授業とは違います。

↓こんな感じで普段から、必要に応じて話し合いが始まり、必要な情報を得るための立ち歩きをして、自分たちで解決できる環境があります。



自分たちで学びを深める練習の成果が出てきました。

☆お便りフォームはこちら☆

<https://forms.gle/ndGkDHTYcmB1bWyU9>

